

1～5万尾の斃死が続き大幅に減耗した。餌不足かもしれない。

20mm種苗の生産数は484,000尾で、生残率は0～5.9% (平均1.9%) だった。この内の102,000尾を放流用として中間育成した。

3 平成元年度～6年度の総括

平成2年度から生産量が増加し、病気の多発により成績の悪かった4年度を除いて30万尾以上の種苗を生産できた(表2)。

5年度からは初期餌料にタイ国産ワムシを使うことによって、より安定した初期飼育ができるようになった。

一方、日令30以降の共食いによる減耗が大きな問題として残された。20mmまでの生残率は最もよかった5年度でも5%、水槽単位でも13%が最高であり、まだまだ改善の必要がある。

エピテリオシスティス類症が時折発生し、かなりの被害をもたらすが全滅したことはない。

表2 年度別種苗生産状況

	平成元年	2年	3年	4年	5年	6年
生産尾数	152,500	389,500	319,200	80,000	693,100	484,000
体長(mm)	22.4	22.9	24.5	56.7	21.7	21.6
生残率(%)	0.6	2.3	2.9	1.5	5.3	2.8
生産密度	706	2,050	1,725	410	2,475	1,075
卵収容回数	16	4	3	10	8	12
生産回数	5	4	3	3	5	9

II 中間育成

1 方法

栽培漁業センター前の海面に中間育成場が造成されたので、今年度の中間育成はすべてここで行った。表3に示したように沖出しは5回行い、沖出しサイズは17.0～23.5mmであった。餌はマダイ用配合飼料を使い、約5cmからは自動給餌にした。飼育途中で大小の選別を行い、小グループの成長を促進させた。放流までに計8面の生簀を使用した。

表3 平成6年度中間育成結果

	沖出し			飼育 日数	放流			
	月日	大きさ	数量(尾)		月日	大きさ	数量(尾)	生残率
1	6月29日	19.7mm	42,000	101	10月7日	102mm	29,889	71.2%
2	7月19日	20.0mm	9,500	81	10月7日	101mm	7,000	73.7%
3	8月2日	17.0mm	27,500	101	11月11日	94mm	20,451	74.4%
4	8月5日	23.5mm	11,000	98	11月11日	97mm	13,117	57.0%
5	8月11日	22.8mm	12,000	92	11月11日	97mm	13,117	57.0%
	合計		102,000			99mm	70,457	69.1%